

小 学 校

平成 2 6 年度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	2
1	基礎研究	2
2	研究の進め方	2
3	研究構想図	3
V	研究の内容	4
1	研究の構想	4
(1)	〔共通事項〕の精選と学習内容の明確化	4
(2)	知覚・感受を基盤とした学習過程	4
(3)	児童の思考の流れに沿った学習活動	5
	①知覚・感受する	
	②思いや意図をもつ	
	③目指す音楽活動につなぐ	
	④目指す音楽	
(4)	評価計画	7
	①指導計画に評価計画を位置付ける	
	②具体的な評価規準を設定する	
	③評価の方法例と配慮する視点	
2	実践事例とその考察	9
(1)	「知覚・感受する」ための指導と評価の実践例	9
	第4学年 「A表現 (1)歌唱」「B鑑賞(1)」	
	題材名「せんりつが重なり合うおもしろさを味わおう」	
(2)	「思いや意図をもつ」ための指導と評価の実践例	12
	第3学年 「A表現 (3)音楽づくり」	
	題材名「おはやしのせんりつをつくってえんそうしよう」	
(3)	「目指す音楽活動につなぐ」ための指導と評価の実践例	15
	第6学年 「A表現 (1)歌唱」	
	題材名「歌詞と音楽のかかわり合いを感じ取って歌おう」	
(4)	「目指す音楽」を実現するための指導と評価の実践例	19
	第3学年 「A表現 (2)器楽」「B鑑賞(1)」	
	題材名「旋律の特徴を感じ取ってリコーダーで演奏しよう」	
VI	研究の成果と課題	23

本実践事例における評価規準の表記は、次のように簡略化して示している。

音楽への関心・意欲・態度－【関】	音楽表現の創意工夫－【創】
音楽表現の技能－【技】	鑑賞の能力－【鑑】

研究主題

思いや意図をもって音楽活動するための指導と評価の工夫

I 研究主題設定の理由

平成 20 年 3 月の中央教育審議会の答申では、音楽科の改善の基本方針として「音楽科、芸術科（音楽）については、その課題を踏まえ、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること」を重視するとし、「小・中学校においては、音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解することなど表現と鑑賞の活動の支えとなる指導内容を〔共通事項〕として示し、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視する」と示している。小学校音楽科の指導においても、一人一人の児童が自らの感性を働かせて主体的に活動に取り組む態度を大事にすることが重要である。

教育研究員小学校音楽部会では、平成 22 年度より、思いや意図をもった表現についての研究を重ねてきた。これまでの研究において、思いや意図をもって活動するには、音楽的な感受と学習内容の明確化が必要であることが明らかにされた。音楽的な感受とは、音楽を形づくっている要素を聴き取ることと、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取ること、すなわち知覚と感受の二つからなるものである。児童は、明確な学習内容に沿った知覚・感受を基盤として、どのように音楽活動するかについての思いや意図をもつ。そして、試行錯誤を続ける中で、児童は音楽表現がよりよくなっていくことを実感し、音楽の楽しさを感じることができるようになる。これを主体的に取り組む児童の姿であると考えた。また、児童が試行錯誤を繰り返し、思いや意図をもって音楽に取り組むためには、児童の思考の流れに沿った学習過程と指導が必要であり、児童の学習状況を的確に把握し指導と評価の一体化を図ることで、一人一人の学習状況に応じた指導改善につなぐことができることも明らかになった。そこで平成 26 年度の研究では、前年度までの研究員による研究成果や今年度の研究授業を分析し、研究を進める上でのポイントを次のように考えた。①学習過程の基盤となる知覚・感受を一層深め、思いや意図を明確にもたせる。②教師主導ではなく、児童の思考の流れに沿った学習過程と評価を関連付ける。③学習過程における 4 つの観点による評価の位置付けを明確にし、評価を可視化できる具体的な評価規準を設定する。④表現と鑑賞の関連を図った授業をデザインする。これらに迫ることを通して、児童が知覚・感受を深めながら、表現の工夫の試行錯誤を通して、思いや意図をもって音楽表現をしたり、自らの感性を働かせて主体的に鑑賞をしたりできるようにしたいと考え、研究主題を「思いや意図をもって音楽活動するための指導と評価の工夫」と設定した。

II 研究の視点

次の 2 点を視点とし、研究主題「思いや意図をもって音楽活動するための指導と評価の工夫」に迫る。

- 1 児童の思考の流れに沿った学習過程の工夫と、知覚・感受を深め、思いや意図を確かにさせる教師の支援（働きかけ）
- 2 児童の思考の流れと教師の支援を関連付けた評価（4 つの観点）の位置付けと、評価を可視化する具体的な評価規準の設定

Ⅲ 研究の仮説

「題材を貫く〔共通事項〕を明確にし、知覚・感受を基盤とした児童の思考の流れに沿った指導と評価の計画を立てることで、児童は思いや意図をもって音楽活動することができるであろう。」

知覚・感受を基盤とした児童の思考の流れとは…

「十分な知覚・感受を基に、思いや意図をもって活動するための児童の思考の流れ」と捉える。

児童が思いや意図をもって音楽活動するとは…

「十分な知覚・感受から児童が思いや意図をもち、目指す音楽につなぐこと」と捉える。

Ⅳ 研究の方法

1 基礎研究

次の文献研究や先行研究をもとに、児童が思いや意図をもって音楽活動するための児童の思考の流れに沿った学習過程、それに伴う評価の在り方等について、基本的な考え方を整理した。また、学習指導要領に書かれている内容や文言について、改めてその意味などを共通理解した。

<文献研究>

- ・「小学校学習指導要領解説音楽編」(文部科学省・平成20年8月)
- ・「小学校学習指導要領解説総則編」(文部科学省・平成20年8月)
- ・「中学校学習指導要領解説音楽編」(文部科学省・平成20年9月)
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 音楽】」
(文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター・平成23年11月)
- ・「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」(文部科学省・平成23年10月)
- ・「音楽科における『思考力・判断力・表現力』と言語活動の充実」
(文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 津田正之)
- ・「学び合う授業づくり・その本質と方法」
(初等教育資料平成25年5月号 文教大学教授 嶋野道広)

<先行研究>

- ・平成22・23・24・25年度教育研究員研究報告書 小学校「音楽」(東京都教育委員会)

2 研究の進め方

7月までに2回の研究授業を実施し、自校や各地区の課題を整理した。また、前年度までの研究を踏まえ、研究主題と仮説を設定した。その後、思いや意図をもって音楽活動するための指導と評価について段階を追った手だてや工夫を検討し、第3回の検証授業から児童の思考の流れ(知覚・感受する→思いや意図をもつ→目指す音楽活動につなぐ→目指す音楽)に焦点化した授業を行い、仮説について検証を進めた。

3 研究構想図

教育研究員共通研究テーマ「思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善」

音楽科における今日的な課題

音楽科・芸術科（音楽）については、その課題を踏まえ、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活の関わりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことを重視する。（(i)改善の基本方針 中央教育審議会答申 平成20年1月）

教師の「指導上の課題」

- ① 題材を貫く〔共通事項〕の明確化
- ② 題材の目標の明確化
- ③ 視点を明確にした知覚・感受の徹底
- ④ 指導に生かすための評価
- ⑤ 表現と鑑賞の関連を図った授業づくり

児童の実態

- ① 知覚・感受することが十分でない
- ② 知覚・感受したことを言葉で表すための語彙が貯えられていない
- ③ 自分から進んで表現を工夫する学び(経験)が積み重ねられていない
- ④ 思いや意図を音楽に生かすために意見交換する経験が十分でない

研究主題

思いや意図をもって音楽活動するための指導と評価の工夫

研究の仮説

題材を貫く〔共通事項〕を明確にし、知覚・感受を基盤とした児童の思考の流れに沿った指導と評価の計画を立てることで、児童は思いや意図をもって音楽活動することができるであろう。

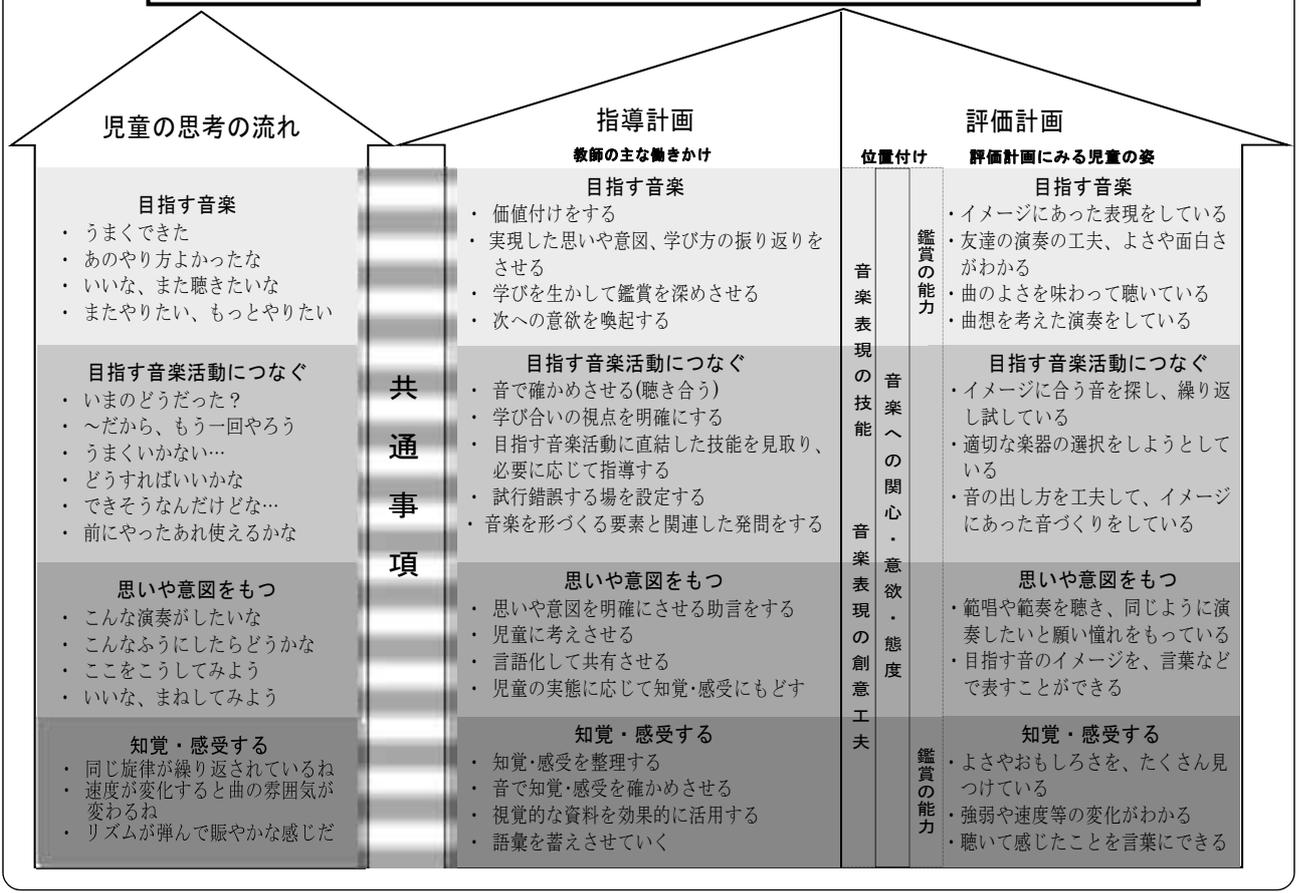
基礎研究

文献研究や先行研究をもとに、思いや意図をもって音楽活動するための学習過程と児童の思考の流れ、それに伴う評価の在り方等について、基本的な考え方を整理した。

実践研究

目指す児童像

目指す音楽を実現するための思いや意図をもち、音楽活動をする児童



V 研究の内容

1 研究の構想

(1)〔共通事項〕の精選と学習内容の明確化

〔共通事項〕は、学習過程の全体構成を見通して、表現及び鑑賞の全ての活動において共通に必要な指導事項として示されている。指導のねらいや手だてを明確にし、児童が感性を高め、思考判断し、表現する一連の過程を重視した学習を充実することが求められている。また、〔共通事項〕の扱いは、表現及び鑑賞における指導事項との関連を図り、6年間を見通して系統的に取り扱うように工夫することが重要である。指導しやすい要素に偏ることのないように留意しなければならない。

〔共通事項〕の精選にあたっては、様々な音楽の要素や仕組みの中から指導事項を絞っていくことが重要であり、選択した共通事項の具体的な内容などを明らかにしてから活動につなげる必要がある。「〔共通事項〕を絞る→具体的内容で示す→どう教えるのかを明らかにする(学習活動)」、この過程を経ることで学習内容を明確化することができると思う。学習過程の基盤となる知覚・感受は児童によって様々なので、何を知覚・感受させるのかがぶれないよう焦点化できる教材の選択や、発問や助言により気付かせていく等の指導の手だても重要である。これらの手だてにより、児童が思いや意図をもつ過程において、始めは大まかで曖昧であった思いが次第に鮮明になっていくなど、自分の目指す音楽表現をはっきりさせていくことができるようになる。

1つの題材で扱う〔共通事項〕の数は、学年や領域によっても変わってくる。音楽は様々な要素や仕組みが組み合わさっているため、1つに絞ることは難しいが、多すぎると網羅的になり学習内容が明確でなくなる。学年が上がるにつれ既習事項を使うという意味で増えることも考えられるが、題材のねらいに必要な〔共通事項〕が複数考えられる場合は、重点的に扱うものを吟味して設定する必要がある。この題材で何を学ばせたいのかを教師が明確にもち、児童がそれについて思考・判断・表現していく学習過程をつくることが大切であると思う。

(2) 知覚・感受を基盤とした学習過程

「知覚」(聴き取ったこと)とは、聴覚を中心とした感覚器官を通して音や音楽を判別すること、「感受」(感じ取ったこと)とは、音や音楽の特質や雰囲気、印象などを感じて受け入れることである。本研究では、平成24年度の教育研究員小学校音楽研究報告書に習い、知覚・感受を「児童が音楽を特徴づけている要素及び音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じる」と捉えた。

知覚・感受は、聴く活動から生まれる。知覚・感受は表現と鑑賞の2つの領域にあり、何を聴き感じ取るのかが基盤になるため必ず出発点にある。最初に知覚・感受があり、それを基盤に創意工夫するのが学習過程である。知覚・感受は、授業の中で繰り返し取り扱い、確実に定着させる必要がある。しかしながら、児童の知覚・感受する過程は「表情観察」では見取ることが難しい。比較聴取などの活動とともに、学習カードや体を動かす活動等、目に見える形で見取することも大切である。学習過程の基盤である「何を知覚・感受させるのか」「どうやって知覚・感受させるのか」を明確にしておくことが重要である。

また、児童が知覚・感受する過程を見ると、知覚面が優位な児童もいれば、感受面が優位な児

童もいる。「どういうところからそう感じたのか」などの発問により、常に知覚・感受を一体的なものとしてとらえていく支援が望まれる。学習のねらい以外の付随した知覚・感受を、板書等で整理していく工夫も必要であろう。たくさん取り上げすぎると何を学習するのが教師も児童もわからなくなる。教師は、児童の知覚・感受を整理できる力を蓄えたい。

（３）児童の思考の流れに沿った学習活動

思いや意図には、児童が聴き取ったことや感じ取ったことが含まれている。思いや意図は「自分だったらこうしたい」など、知覚・感受が基盤となるものである。児童の思考の流れに沿った学習過程が組まれないと、思いや意図をもつことにはつながらない。児童が音楽を豊かに感じ取り、それをもとに「こうしたい」という発想や意図をもつことができる授業構成が求められる。何に対して思いや意図をもたせるのかを知覚・感受の段階から教師が明確にもち、道筋のはっきりした授業を構成していくことが児童の「思いや意図」を実現していく学習の手だてとなる。

①知覚・感受する

児童に自分の思いや意図をもたせるためには、まず、興味や関心、憧れをもてるような教材とその出会わせ方を工夫することが大切である。そして、題材を貫く〔共通事項〕を支えとした十分な知覚・感受によって学習過程が成り立っていく。そのためには、教材となる音楽を意図的に聴かせ、音楽を特徴付けている要素に着目させることが重要となる。音楽を形づくっている要素を知覚・感受することは思いや意図をもつことと密接につながっており、そのためにも、この段階の活動を丁寧に指導していくことが必要である。

例えば「音楽のどのような特徴からそう思ったのか」「その特徴からどんなことを思ったり感じたりするのか」などの発問から知覚と感受を分けて板書などで整理し、児童が音楽を形づくっている要素に気付いたり考えたりすることを促していく。児童は要素とそれらの働きが生み出すよさ等を結び付けて自分なりの思いや意図を見付けていく。

その際、児童が知覚・感受したことを、教師が整理したり、視覚的な資料を効果的に活用したりすることを通して、それらを高めていくことや、先の例示のように意識的に教師が問いかけ、それに対する回答を考えさせるなどの言語活動を取り入れることによって、語彙そのものを蓄えさせていくことも重要といえる。

②思いや意図をもつ

「思いや意図をもつ」とは、音楽表現に対する自分の考えや願いをもつことである。例えば、音楽づくりでは、思いや意図をもつことにより児童は自らの感性や創造性を発揮しながら、自分にとって価値ある新たな音楽をつくりだすことができる。知覚・感受したことを基に、最終的に表現したい姿への見通しをもたせることが重要となる。

そのためには、知覚・感受したことを関連付けながら、思いや意図を明確にするための的確な指導や助言が必要である。同時に、知覚・感受したことを言語化し共有していくことも大切である。思いや意図がはっきりしていなくても、学習が進むにつれて徐々に思いや意図をもてるようになる児童も見られる。その際に、状況を把握した上で、知覚・感受する段階へもどすことも

必要となってくる。また、漠然とした思いや意図を、言葉や絵などで可視化することも、その一助となる。これらの手立てにより、始めは曖昧であった児童の思いや意図が次第に鮮明になり、自身が目指す音楽表現をはっきりと意識し、目指す音楽への見通しをもつことができるようになる。

③目指す音楽活動につなぐ

児童の「このように表したい」という思いや意図を音楽表現につなげるために、児童は自ら音によって試行錯誤したり技能の習得をしたりすることを繰り返すことによって、自分の目指す音楽に近づいていく。

この段階では、「知覚・感受する」段階で捉えた、音楽を形づくっている要素やそれらの働きが生み出すよさやおもしろさと、自分はこのように表現したいという思いや意図を意識し、目指す音楽表現へと近づくように、試行錯誤させていくことが大切である。そのためには常に「音」で試すことが重要となってくる。自分が出した声や音が、表現したい音楽へと近づいているかどうか注意深く聴くなどして、何度も繰り返し確認しながら表現を高めていく必要がある。

また、自分の思いや意図を表現するために必要な技能に気付き、それらを習得していくことも重要である。これまでのように、訓練的に反復練習をするなど、教師主導で教え込むのではなく、児童が自らの思いや意図を音楽表現につなげるための技能の必要性に自ら気付き、それを実現させるために教師が積極的に技能に関する指導を行っていくということである。

さらに、学び合いの視点を明確にした上で、児童同士による学び合い（高め合い）を、音楽活動の中に適切に取り入れることも大切である。

④目指す音楽

これまでの段階を経て、つくりあげた音楽表現について判断し、自分の思いや意図が音楽で表現できた、或いは表現がよくなったなどの喜びを実感する段階である。

児童がより明確に自らの表現に価値を見いだすようになるためには、実現しようとした思いや意図やこれまでの学び方等について振り返りをする事、また、これまでの学習を生かして鑑賞を深めることが最も重要である。それは、自分が目指した音楽表現やその実現に向けて習得した技能について判断する力を育成することにもつながる。

また、自分で考えたことが生かされ、認められ、褒められたことにより、もっと知りたい、もっとやりたい、次も頑張りたいという意欲が湧き、自信が生まれ、主体的に課題に取り組むことができるようになる。同時に、試行錯誤して自らが目指す音楽表現へと高めてきたことにより、音に対する感性をより積極的に磨こうとする意欲や態度が育成できることも期待される。

いずれにしても、これらの成果を挙げるためには、「児童が思いや意図をもって表現したこと」に対する教師の適切な評価が、鍵を握っているといえる。

(4) 評価計画

音楽科では、従来、楽曲を仕上げることを中心とした楽曲完成型の授業が進められる傾向があった。これは集団を効率的に指導でき、音楽のよさや楽しさを学級など全体で共有しやすいという利点がある。しかし、児童一人一人の学習状況が明確に見えない部分もあり、学ぶべきことが身に付かない可能性もある。すべての児童が思いや意図をもち、主体的に音楽活動に取り組むためには、児童一人一人の学習状況や学習過程を適切に見取る必要がある。大切なのは、児童の実態を的確に把握し、児童のもっている可能性を引き出す指導である。これについては、平成24年度の東京都教育研究員の報告書の中でも述べられており、児童の学習状況を適切に評価し、その状況に応じて指導を見直す形成的な評価の充実が教師の課題としてあげられている。

本研究では、評価を指導と一体化した「指導の改善に生かすための評価」と捉え、①児童の思考の流れに沿ってどこで何を評価するかという「評価計画」②どの活動のどのような児童の姿で判断するかを目に見える形で示す「具体的な評価規準」③「評価の方法例と配慮する視点」に分けて研究を進めた。

①指導計画に評価計画を位置付ける

評価を考える上での留意事項として、指導内容との整合性があげられる。また、題材全体を見たときに4つの観点による評価規準がきちんと位置付けられていることも重要である。4つの観点の意義は、児童を多面的に見ることである。それぞれの観点について、児童一人一人の学習状況を継続的に把握していくような評価の工夫が欠かせない。これは、指導したことを一つ一つすべて確認しなければならないということではなく、指導目標を精査し、その時間に何を評価すればよいかを明確にしておく必要があるということである。

音楽表現の技能	音楽への関心	鑑賞の能力	目指す音楽
			目指す音楽活動につなぐ
音楽表現の創意工夫	意欲・態度		思いや意図をもつ
		鑑賞の能力	知覚・感受

左の図は、児童の思考の流れ(構想図参照)に評価計画として評価規準の4つの観点を位置付けたものである。関心・意欲・態度の評価は児童の思考の全段階を通して位置付けられる。創意工夫と表現の技能の評価は、思いや意図をもつ段階から目指す音楽につなぐ段階を行ったり来たりするように存在する。つまり、どの段階においても評価することができる。鑑賞の能力の位置付けについては、色々な組み合わせが考えられるが、本研究では「鑑賞－表現－鑑賞」の学習活動の流れをモデルに、知覚・感受と目指す音楽の段階に位置付けることとした。知覚・感受の段階における鑑賞から、題材のねらいに沿って分析的に聴かせていくことにより、音楽を聴く手がかりを学習させるものである。目指す音楽の段階での鑑賞は、

そこに至るまでの学習を踏まえての、楽曲全体を捉える鑑賞となる。このように位置付けを明確にすることで、その題材の中で求める学力を、表現と鑑賞において一体的に達成できると考えた。

②具体的な評価規準を設定する

本研究では、評価規準を「誰もが努力すれば実現できる内容で、かつ、達成感を味わえるポイント」と解釈した。「B(おおむね満足)=Aを含むB」と考え、Aの児童を探すのではなく、みんながBに入っているか気を配る(Cの児童がBになるように指導を重ねる)ための規準点として捉える。つまり、Cと判断する場合にはBにするための具体的な指導方法を考えておく必要がある。

評価するためには、児童の学習状況が目に見える形で表れるようにしなくてはならない。見取ることが難しい観点も「見える姿」に置き換えて捉える工夫が求められる。また、教師にとって、評価とは指導の改善に生かすためのものであり、評価のための授業になってはならない。評価のために児童の思考や音楽活動の流れが滞らないよう留意しつつ、後で客観的に評価できるデータを集める習慣を日頃の実践から身に付けたい。

③評価の方法例と配慮する視点

	評価の方法例	配慮する視点	実践事例
A	行動観察や身体表現、表情観察による方法	先入観に影響されないようにし、常に客観的に捉える。記号化など、簡単に素早くチェックできる方法を工夫する。行動や表情に出にくい児童もいるので多面的に見るように心掛けることも必要である。	事例 ①～④ 本発表
B	発言内容による方法	挙手による発言以外にも、対話や会話の中での児童のつぶやきを見落とさないようにする。グループ活動では、話し合いのルールをつくり、全員が必ず発言し聴き合うなど、一人一人が発言しやすい場を設定する。	事例 ①～④ 本発表
C	学習カードなどによる方法	内容の精選やねらいを明確にし、書くことにあまり時間をかけないように心掛け、児童に負担をかけないようにする。一方、書かせる場合には、その時間を保証しなければならない。そのための手だてとしては、従来からの学習カードの開発に加えて、ICTの活用なども考えられる。 また、感じたことを言葉にすることが難しい児童への支援が必要である。具体的には、ヒントカードを提示し、友達の意見を参考にしたりできるような場を意図的に設定する。言葉で表わすだけでなく、絵や線などで表現させる方法も有効である。	事例 ①～④ 本発表
D	演奏聴取や実技テストによる方法	学習したことや身に付けさせたい技能がどの程度実現できているかを見取る。したがって、部分演奏やグループ演奏からも評価することもできる。実技テストなどの場面で、一人や少人数では緊張してしまう児童もいるので、心理的な負担を考慮し、机間指導で聴き取るなどの方法を適宜組み合わせる工夫も考えられる。授業の中で、一人や少人数で表現する場を設定するなど、授業展開や評価の仕方を工夫していくことが大切である。	事例 ①～④ 本発表
E	アンケートやチェックシートなどの自己評価による方法	自己評価は、教師が見落としている部分を発見する上でも役立つものである。授業のねらいに沿ったポイントで自己評価させることが重要である。できた、できないを見るのではなく、児童がどのような課題意識をもっているかを把握することで指導に生かしたい。	本発表

2 実践事例とその考察

(1)「知覚・感受する」ための指導と評価の実践例

第4学年「A表現 (1)歌唱」「B鑑賞(1)」

①題材名 「せんりつが重なり合うおもしろさを味わおう」

②題材の目標

2つの旋律の特徴を聴き取り、それらの旋律が重なり合うよさや面白さを感じ取りながら、互いの声を聴いて歌ったり、楽曲の構造に気を付けて聴いたりする。

③学習指導要領との関連

【A表現 (1) 歌唱】

エ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

【B鑑賞 (1)】

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。

〔共通事項〕ア (ア) 旋律、音の重なり

		〔共通事項〕の具体的内容	学習活動
ア	(ア)	・ 2つの旋律の特徴の違い	①手を動かしたり、口ずさんだりしながら、旋律の特徴を感じ取って歌ったり、聴いたりする。 ②スタッカートがなくして歌ったり、シンコペーションを四分音符で歌ったりして、旋律の特徴を感じ取りながら声を重ねて歌う。
		・ 2つの旋律が重なり合うよさや面白さ	①「パレードホッホー」のアとイの最後がどのような演奏になるか予想しながら聴く。 ②「パレードホッホー」の2つの旋律をどのように重ねて歌うか、グループで話し合ったり、聴き合ったりしながら歌う。

④題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①「パレードホッホー」の旋律の特徴や重なりに関心をもって歌ったり、聴いたりする学習に主体的に取り組もうとしている。	①「パレードホッホー」の2つの旋律の特徴を聴き取り、それらが重なり合うよさや面白さを感じ取りながら歌っている。 ②2つの旋律の特徴を生かしながら、どのように声を重ねて歌うかについて自分の思いや意図をもっている。	①互いの声を聴き合いながら歌っている。 ②旋律の特徴を生かしながら、声を重ねて歌っている。	①「ファランドール」の2つの旋律の掛け合いから楽曲の構造を聴き取り、それらの旋律が重なり合うよさや面白さを感じ取りながら聴いている。

⑤教材 「アルルの女」第2組曲から「ファランドール」(ビゼー 作曲)

「パレードホッホー」(高木あきこ 作詞 / 平良毅州 作曲)

⑥題材の指導計画と評価計画（4時間扱い）

児童の思考の流れ	次	時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	具体的評価規準 (評価方法)
知覚・感受する	第一次	◆楽曲の構造を聴き取り、2つの旋律が重なり合うよさや面白さを感じ取る。	<p>○「ファランドール」の楽曲の構造を聴き取り、2つの旋律が重なり合うよさや面白さを感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ファランドール」から2つの旋律の掛け合いから楽曲の構造を聴き取る。 ・手を動かしたり、口ずさんだりして2つの旋律の重なりを感じ取って聴く。 <p>○旋律の重なる面白さを感じ取って歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">せんりつの重なりを味わおう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「パレードホッホー」のアとイの範唱を聴いて歌う。 ・手を動かしたり、口ずさんだりしながら、アとイの旋律の特徴を感じ取る。 ・アとイの最後はどのような演奏になるか予想しながら聴く。 ・アとイの重なりを体の動きで感じ取りながら歌う。 <p>○互いの思いや意図を共有し合い、次回の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの旋律をどのように重ねて歌いたいのか、グループで話し合ったり、聴き合ったりしながら歌う。 ・次回の学習について、見通しをもつ。 	<p>「おおむね満足できる」状況(B)と判断した児童の学習状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴の違いを聴き取り、それらが重なるよさや面白さを言葉や体などで表現している。 <p>「努力を要する」状況と判断されそうな児童への働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴や重なりなどのよさを言葉や体の動きで表せない児童に対し、板書の内容を振り返りながら、自分の気持ちに合う言葉を見つけさせるようにする。 <p>【関-①】 【創-①】 (活動観察)</p>
		2	<p>◆「パレードホッホー」から、旋律が重なり合うよさや面白さを感じ取りながら、どのように歌いたいのか思いや意図をもつ。</p> <p>○2つの旋律の特徴を生かし、どのように声を重ねて歌うか思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように声を重ねて歌いたいのか前時を振り返る。 ・スタッカートがなくして歌ったり、シンコペーションを四分音符で歌ったりして、旋律の特徴を感じ取りながら声を重ねて歌う。 ・グループに分かれ、どのようにを工夫するか意見を交換しながら歌う。 	<p>「パレードホッホー」の旋律の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、旋律の特徴を生かした歌い方を工夫し、どのように声を重ねて歌うか思いや意図をもっている。</p> <p>【創-②】 (発言・活動観察)</p>
思いや意図をもつ	第二次			

目指す音楽活動につながる	第二次	<p>3 ○声の大きさに気を付けて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数人の児童と教師の歌声から声の大きさの違いを比較聴取する。 ・アとイのグループに分かれ、相手を変えながら歌う。 ・グループごとに歌い、互いの歌声を聴き合い、よかったところを伝え合う。 	<p>パレードホッパー」の旋律の重なりが生み出す面白さを感じ取り、互いの声を聴き合いながら、声を合わせて歌っている。</p> <p>【技-①】 (グループごとの歌声聴取)</p>
目指す音楽	第三次	<p>◆旋律の重なりによさや面白さを感じ取りながら歌ったり、聴いたりする。</p> <p>4 ○2つの旋律の特徴を生かし、互いの声を聴き合いながら声を重ねて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2時間目の自分たちの思いや意図を振り返る。 ・2つの旋律の特徴を生かし、互いの声を聴き合いながら声を重ねて歌う。 <p>○「ファランドール」の旋律の重なりによさや面白さを感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の構造を確認する。 ・体の動きで旋律の特徴を感じ取りながら聴く。 ・2つの異なる特徴の旋律が重なり合う面白さを紹介する。 	<p>旋律の掛け合いや重なりの違いを生かしながら歌っている。</p> <p>【技-②】</p> <p>「ファランドール」の2つの異なる特徴の旋律の重なりや掛け合いのよさや面白さを味わいながら聴いている。</p> <p>【鑑-①】 (活動観察・発言・紹介文)</p>

⑦成果と課題

- ・鑑賞曲「ファランドール」から知覚・感受した2つの旋律が重なり合うよさや面白さを、歌唱表現につながりをもたせることで、児童が思いや意図をより明確にもち、表現につなげることができた。
- ・評価においては、児童の表情や体の動きなどを通し、多様な方法で知覚・感受している様子を見取っていくことが大切であると実感した。

ぼくたちのせんりつが聴こえる時と反対の時に手を上げているね。



兵たいが行進しているようなはきりとしたせんりつと、女の子が楽しそうにくるくるまわっているようなこまかいリズムのせんりつがかいになると、おまつりみたいにはげしくなる。

(2)「思いや意図をもつ」ための指導と評価の実践例

第3学年「A表現 (3)音楽づくり」

①題材名 「おはやしのせんりつをつくってえんそうしよう」

②題材の目標

お囃子の特徴を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、それを生かした旋律づくりをする。

③学習指導要領との関連

【A表現 (3) 音楽づくり】

ア いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。

【B鑑賞 (1)】

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。

〔共通事項〕(1)ア(ア) 旋律、リズム

			〔共通事項〕の具体的な内容	学習活動
ア	(ア)	旋律	・ラ・ド↑・レ↑の3音を即興的に組み合わせてできる、音の連なり方の違いが生み出すよさや面白さ	①お囃子の旋律の笛の音色に注目して聴き、旋律の働きによるよさを感じ取り、こういう旋律をつくりたいという思いや意図をもって旋律づくりをする。 ②自分が表現したいお囃子風の旋律になるように、音の連なり方を工夫してつくったり演奏したりしている。
ア	(ア)	リズム	・お囃子のリズムと旋律の働きが生み出す面白さや楽しさ	①お囃子のリズムによる楽しさや面白さを感じ取って聴き、リズムによって旋律をつくったり演奏したりしている。

④題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①お囃子に興味・関心をもって聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ②音を音楽に構成することに興味・関心をもち、お囃子の旋律をつくる学習に進んで取り組もうとしている。	①お囃子の旋律やリズムの特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、どのように音楽づくりをするか思いや意図をもって旋律づくりをしている。	①お囃子の旋律やリズムの特徴から得た発想を生かし、音を音楽に構成している。	①お囃子の旋律やリズムの特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。 ②お囃子の旋律やリズムのよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。

⑤教材 「ねぶた囃子」 青森県津軽地方

「花輪ばやし」 秋田県旧花輪町

「さあみんなでどっこいしょ」(宮本毅 作詞・作曲 / 宮本毅・大島隆二 編曲)

⑥題材の指導計画と評価計画

児童の思考の流れ	次	時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	具体的評価規準 (評価方法)
知覚・感受する 思いや意図をもつ	第一次	1	<p>◆お囃子を聴いて、旋律のよさや面白さを感じ取る。</p> <p>○お囃子を聴いて、特徴から旋律やリズムのよさや面白さを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> お囃子「ねぶた囃子」を聴き、映像を視聴する。 使われている楽器（太鼓・笛・鉦）や、旋律が短い節の繰り返しであることに気付き、お祭りのイメージをもつ。 気付いたことを学習カードに書いて発表し合い、友達の見解についてお囃子を聴きながら共有する。 聴き取ったお囃子の特徴である太鼓のリズムや笛の旋律、鉦の働きによるお囃子のよさや面白さを感じ取る。 <p>○一人一人がどのような旋律にしたいか思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> お囃子「花輪ばやし」や「さあみんなでどっこいしょ」を部分聴取する。 お囃子をイメージして、模倣しながら自由にリコーダーを試し吹きする。 お囃子の特徴について、気付いたことを学習カードに書き表す。 	<p>お囃子に興味・関心をもって聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【関一①】 (発言、行動観察)</p> <p>お囃子の旋律の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。</p> <p>【鑑一①】 (行動観察、学習カード)</p>
		思いや意図をもつ 目指す音楽活動につなぐ	第二次	2 (本時)

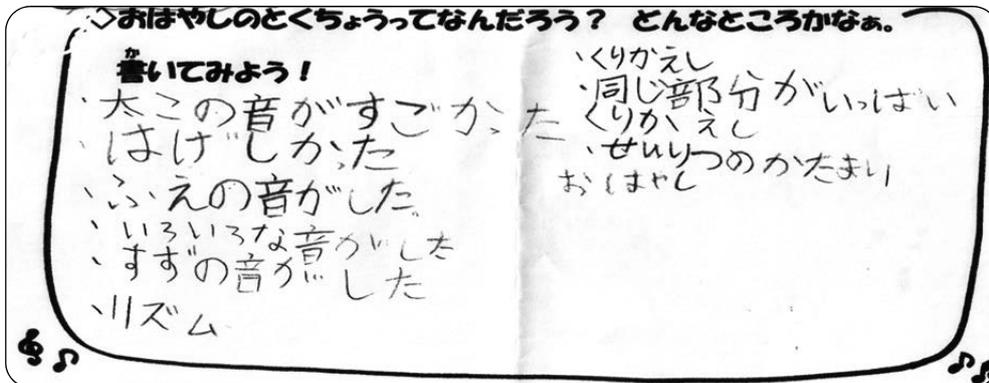
目指す音楽	第二次	3	<p>○つくった旋律を和太鼓や鉦に合わせて演奏し、お囃子の気分を味わいお囃子に親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくった旋律を和太鼓や鉦のリズムに合わせて演奏する。 ・互いに演奏を聴き合う。 ・お囃子の旋律をつくって演奏した感想を友達に伝えたり学習カードに書き表したりする。 ・「ねぶた囃子」「花輪ばやし」の特徴に気付いて味わって聴く。 	<p>お囃子の特徴から得た発想を生かし、音を選択して8拍の旋律に構成している。</p> <p>【技①】 (演奏聴取、学習カード)</p> <p>お囃子の特徴(構成)に気付いて、よさや面白さを味わって聴いている。</p> <p>【鑑②】 (行動観察、学習カード)</p>

⑦成果と課題

- ・使用する音を3音に絞ったことで、児童が思いや意図をもって意欲的に音楽づくりの活動に取り組むことができた。
- ・お囃子の音楽にのって探り吹きを十分にしたことで、お囃子らしい旋律をリズムにのって楽しくつくることができた。
- ・教師は、児童が旋律をつくっている最中に、工夫した良い点や作り方の良い点などを見つけて褒め、全体に広め、価値付けして自信をもたせ、学習の進め方や方向を示しながら活動を進めることが大切で、教師の瞬時にける判断力を伸ばすことが課題である。

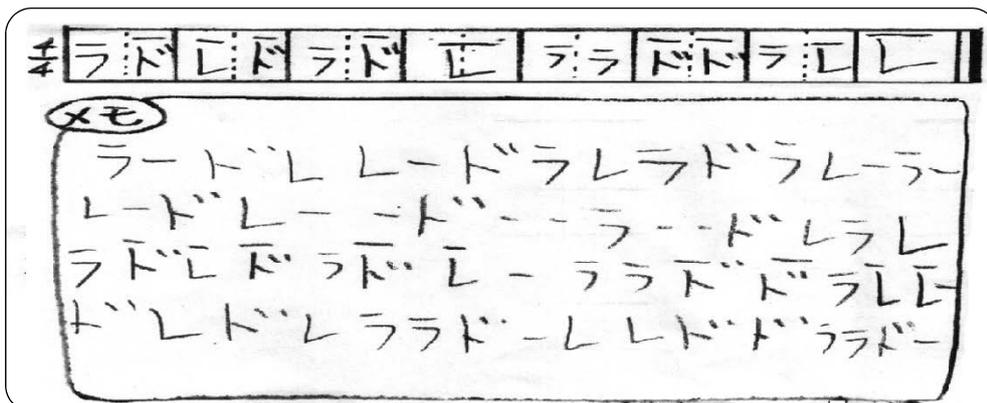
⑧資料

- ・学習カード①



お囃子の特徴づけている要素や音楽の仕組みを知覚し、お囃子の音楽の構造に気付いて聴いている。このことを教師は感受の面と関連付けて児童に深めさせていく必要がある。

- ・学習カード②



花輪ばやしの流れている中、探り吹きで試行錯誤を繰り返して、例示したリズムよりさらに自由に細かいリズムを使うなど、思いや意図をもってお囃子風の旋律をつくっている。

(3) 「目指す音楽活動につなぐ」ための指導と評価の実践例

第6学年 「A表現(1)歌唱」

①題材名 「歌詞と音楽のかかわり合いを感じ取って歌おう」

②題材の目標

歌詞とフレーズのかかわりを感じ取って聴いたり、旋律の動きや強弱を生かして歌ったりすることができる。

③学習指導要領との関連

【A表現(1)歌唱】

イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。

〔共通事項〕ア(ア) 強弱、フレーズ

			〔共通事項〕の具体的な内容	学習活動
ア	(ア)	強弱	・歌詞の意味や内容によって、伝えたい思いや意図をより明確にするための音量や音の質感の変化	①「夕焼小焼」を実際に歌い鑑賞CDと聴き比べたり、強弱をつけて歌うのとそうでないのとはどのような違いがあるのか比較演奏したりして、感じ取ったことを話し合う。 ②自分の思いや意図を音に具現化するために歌詞の内容や伝えたいことをもとに「明日を信じて」の強弱を工夫して歌う。
ア	(ア)	フレーズ	・歌詞と音楽を形づくっている要素との関わり合い	①強弱の変化やフレーズのまとまりを歌詞と関連付けて感じ取って聴く。 ②歌詞とフレーズの関わり合いを感じ取って、「明日を信じて」を強弱やブレスの位置などの工夫をしながら歌う。

④題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①歌詞とフレーズの関わり合いを感じ取って聴いたり、旋律の動きや強弱を生かして歌ったりする学習に、主体的に取り組もうとしている。	①フレーズと歌詞の関わり合いについて聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながらどのように歌うかについて思いや意図を持っている。	①強さや歌い方を変えたり、歌詞とフレーズのかかわりからブレスの位置を考えたりし、自分たちの心情に合った表現の工夫を考えている。 ②強さや歌い方を変えたり、歌詞とフレーズのかかわりからブレスの位置を考えたりして歌っている。

⑤教材 「明日を信じて」(小林真人 作詞・作曲)

「唱歌の四季」から「夕焼小焼」(三善晃 作編曲)

⑥題材の指導計画と評価計画（全4時間扱い）

児童の 思考の 流れ	次	時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	具体的評価規準 (評価方法)	
知覚・感受する	第一次	◆強弱の変化やフレーズのまとまりを歌詞と関連付けて感じ取って聴く。			歌詞とフレーズの関わりを感じ取って聴いたり、旋律の動きや強弱を生かして歌ったりする学習に、主体的に取り組もうとしている。 【関一①】 (発言・表情観察)
		1	○「夕焼小焼」を鑑賞し歌詞と音楽を形づくっている要素との関わり合いを聴き取る。 ・「夕焼小焼」を聴く。 ・演奏表現について気付いたことを発表する。 ・「夕焼小焼」の歌詞を読み文節で区切る。 ・「夕焼小焼」を再び鑑賞し、歌詞とフレーズが互いに関わり合っていることに気付く。 ・「夕焼小焼」を歌う。 ・「夕焼小焼」を実際に歌い鑑賞 CD と聴き比べたり、強弱をつけて歌うのとそうでないのとはどのような違いがあるのか比較演奏したりして、感じ取ったことを話し合う。 ・歌詞とフレーズの関わり合いを感じ取りながら「夕焼小焼」を聴く。		
思いや意図をもつ	第二次	◆歌詞と音楽を形づくっている要素との関わりを感じ取り、思いや意図をもつ。			フレーズと歌詞のかかわりについて聴き取ったりし、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りどのように歌うかについて思いや意図をもっている。 【創一①】 (発言・学習カード)
		2	○「明日を信じて」の歌詞とフレーズとの関わり合いを感じ取りながら、一人一人がどのように歌いたいか思いや意図をもつ。 ・「明日を信じて」の歌詞を文節ごとにわかる活動を通して、フレーズと歌詞の関係を知る。 ・歌詞とフレーズの関わりを感じ取りながら「明日を信じて」の範唱 CD を聴く。 ・「明日を信じて」のソプラノパートとアルトパートを譜読みする。 ・ソプラノパートとアルトパートを合わせる。 ・歌詞を朗読し一番好きなどころや伝えたいところを決める。 ・自分の思いや意図をどのように表現したいかについて考え、音楽の言葉を使って学習カードに記入する。		

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">目指す音楽活動につなぐ</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第二次</p>	<p>3 (本時)</p> <p>○思いや意図をクラス全体で共有し、互いの音を聴き合いながら、歌詞の内容が伝わるように歌い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞とフレーズとの関わり合いを確かめながら「明日を信じて」を合唱する。 ・どのように表現したいかについて前時に記入した学習カードを確認する。 ・互いの学習カードをもとに、思いや意図を共有する。 ・拡大楽譜を見ながら自分たちの思いや意図を伝えるための表現の工夫について話し合い、目指す音楽表現を明確にする。 ・自分たちが考えた表現の工夫を実際に歌い音で確かめる。 ・クラスを2つのグループに分け互いに聴き合ったり、歌い方を工夫したものと工夫せずに歌ったものと比較聴取したりする。 ・自分たちの演奏がどうだったか意見を交流する。 ・工夫した歌い方で「明日を信じて」を通して合唱する。 <div data-bbox="635 1057 1034 1294" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの演奏がどうだったか意見を交流する。 ・工夫した歌い方で「明日を信じて」を通して合唱する。 ・思いや意図が音楽表現につながったか、振り返り、学習カードに記入する。 ・次時めあてをもつ。 	<p>「おおむね満足できる」状況(B)と判断した児童の学習状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを見ながら歌い方の工夫について確認し歌い方を変えたり、自分たちの演奏について、「強弱」や「プレス位置」など音楽の言葉を使って発言したり、表現したりしている。 <p>「努力を要する」状況と判断されそうな児童への働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように歌い方を変えればよいのか分からなかったり、学習カードに何を書いてよいのか分からない児童に対しては、学習カードを再度確認させて、その内容についてできていたか聞いたり、友達の発言についての感想を聞いたりする。 <p>【創-②】 (発言・学習カード)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">目指す音楽</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第二次</p>	<p>4</p> <p>○思いや意図をもって自分の音楽を表現できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明日を信じて」を合唱する。 ・学習カードを確認し、前時行った歌い方の工夫について振り返る。 ・「明日を信じて」を合唱し、録音する。 ・録音をした自分たちの演奏を聴き、自分たちの思いや意図が演奏表現として具現化できたか確かめる。 ・「歌詞とフレーズ」、「歌詞の内容と強弱」を観点に「夕焼小焼」を鑑賞する。 ・学習カードを記入する。 	<p>強さや歌い方を変えたり、歌詞とフレーズの関わりからプレスの位置を考えたりして歌っている。</p> <p>【技-①】 (演奏聴取・発言)</p>

⑦成果と課題

- ・歌詞とフレーズの関わり合いを考えて、歌い方の工夫をすることができるようになってきた。
- ・一人一人が知覚・感受したことを基に思いや意図をもって歌うことができていた。また、そのことが学習カードの記述からも見取ることができた。
- ・学級として表現を一つにまとめたとしても、個人の思いを大切にすることが課題である。

⑧資料

自分の思いや意図を[共通事項]の言葉を使って書くことができています。

・学習カード (児童①)

<p>2 この歌を通してどんなことを伝えたいですか?</p> <p>一番最後の「明日を信じて」の所を 明日を信じて生きていこう 自分の未来を信じて生きていこう。希望をもとに夢を 聞いている人達に伝えたいです。</p>	<p>4 一番入魂ポイントをどのように歌いたいですか?</p> <p>相手に伝えるために、<u>はっきりと抑し巧に伝えるように</u> 強弱をつけて歌いたいです。</p>
--	---

・学習カード (児童②)

<p>4 一番入魂ポイントをどのように歌いたいですか?</p> <p>まず、あなたから話してきた <u>と</u> の場所の音量を下げて、 「い」を強くかいて、「に」に向かって音量をおとして、「歌」を 強めに「あ」をいして、までつけてうたう。</p>	<p>6 今日の音楽をふりかえろう!! (その2)</p> <p>考えたこと・できるようになったことなど</p> <p>友達の考え(思い)を所であらわして、その考えが伝わり、下か どうか考えました。友達、あられ方に前回のめあての も、とてうたい方はないか?の部分があがった。</p>
---	---

友達の違いや意図を共有するために音で試すことができています。

(4) 「目指す音楽」を実現するための指導と評価の実践例

第3学年「A表現(2)器楽」「B鑑賞(1)」

①題材名 「旋律の特徴を感じ取ってリコーダーで演奏しよう」

②題材の目標

- (1) リコーダーの必要な技能(運指・タンギング・ブレスコントロール)に気付き、音色に気を付けて演奏する。
- (2) 旋律の特徴を聴き取り、曲想に合った表現を工夫する。

③学習指導要領との関連

【A表現(2)器楽】

イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。

ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。

【B鑑賞(1)】

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。

[共通事項] ア (ア) 旋律、音色

			〔共通事項〕の具体的内容	学習活動
ア	(ア)	旋律	・和声的な重なり方(旋律の重なり)と対位的な重なり方(旋律の掛け合い) それぞれの美しさや面白さを感じ取る。	①範奏を聴き、旋律の特徴を聴き取ったり、生かして思いをもって演奏したりする。 ②旋律の重なりと掛け合いの面白さを楽しみながら演奏する。
		音色	・リコーダーの音色(音の表情)に気付く。 ・必要な技能に気付き、身に付けて演奏する。	①曲想にふさわしいリコーダーの音色に気付き、必要な技能を身に付けながら演奏する。

④題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①リコーダーの音色や旋律の特徴と曲想の関わりに関心をもち、楽曲を聴いたり、リコーダーの演奏に進んで取り組んだりしようとしている。	①旋律の特徴を聴き取ったり、楽曲の気分を感じ取ったりして、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように表現するかについて自分の思いや意図をもっている。	①リコーダーの音色に気を付け、タンギングやブレスコントロールなどの技能を身に付けながら演奏している。 ②旋律の特徴を捉え、曲想にふさわしい表現で音を合わせて二重奏や合奏をしている。	①リコーダーの音色や、2つの旋律の重なっているところや、掛け合いになっているところを聴き取り、楽曲の楽しさを感じ取る。 ②曲想と旋律の関わり合いを範奏と自分の演奏を比較して、感じ取ったことなどを言葉で表すなどして聴いている。

⑤教材 「レッツゴー ソーレー」(橋本龍雄 作曲)

「ソラシド マーチ」(上柴はじめ 作曲)

⑥題材の指導計画と評価計画（全4時間扱い）

児童の 思考の 流れ	次	時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	具体的評価規準 (評価方法)
知覚・感受する	第一次		◆旋律や音の重なりを聴き取り演奏する。	
		1	<p>○「レッツゴー ソーレー」を鑑賞し、二つの旋律の関わり合いについて聴き取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツゴー ソーレー」を聴く。 ・「レッツゴー ソーレー」を聴いて、分かったことや気付いたことについて、意見交流をする。 ・「レッツゴー ソーレー」を再び鑑賞し、リコーダーの音色や二つの旋律の関わり合いを視点に、それらの特徴を言葉などで伝え合う。 ・「レッツゴー ソーレー」の二つの旋律を、教師の範奏を聴いたり、楽譜を見たりして演奏する。 	<p>リコーダーの音色や旋律の特徴と曲想の関わりに関心を持ち、楽曲を聴いたり、リコーダーの演奏に進んで取り組んだりしようとしている。</p> <p>【関－①】 (発言・観察・学習カード)</p> <p>リコーダーの音色や、2つの旋律の重なっているところや、掛け合いになっているところを聴き取り、楽曲の楽しさを感じ取る。</p> <p>【鑑－①】 (発言・観察・学習カード)</p>
思いや意図をもつ	第二次		◆二つの旋律と音楽を形づくっている要素との関わりを感じ取り、思いや意図をもって演奏する。	
		2	<p>○「レッツゴー ソーレー」の旋律と音色を感じ取りながら、一人一人がどのように演奏したいか思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツゴー ソーレー」をフレーズごとに取り出し、演奏したり聴いたりすることを通して、旋律や音の重なりについて理解を深める。 ・二つの旋律を合わせて演奏する。 ・楽曲を通して、一番好きなところや大切だと思うところを決める。 ・自分の思いや意図を踏まえ、どのように表現したいかについて考え、学習カードに記入する。 	<p>旋律の特徴を聴き取ったり、楽曲の気分を感じ取ったりして、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように表現するかについて自分の思いや意図をもっている。</p> <p>【創－①】 (演奏聴取・発言・学習カード)</p>

<p>目指す音楽活動につなぐ</p>	<p>3</p>	<p>○思いや意図をクラス全体でそれぞれがもった思いや意図を知り、互いの旋律を聴き合いながら、表現したい演奏になるように演奏の仕方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように表現したいかについて、前時に記入した学習カードを確認する。 ・二つの旋律の関わり合いを確かめながら「レッツゴー ソーレー」を演奏する。 ・互いの学習カードから、それぞれの思いや意図を共有する。 ・拡大楽譜を見ながら、自分たちの思いや意図を伝えるための表現の工夫について、確認する。 ・ペアやグループに分け、相互に演奏したり聴き合ったりして、表現の工夫について比較聴取する。 ・自分たちの演奏がどうであったか、意見の交流をする。 ・表現の仕方を工夫して「レッツゴー ソーレー」を合奏する。 	<p>リコーダーの音色に気を付け、タンギングやブレスコントロールなどの技能を身に付けながら演奏している。</p> <p>【技-①】 (演奏聴取・発言・学習カード)</p>
<p>目指す音楽</p>	<p>第二次</p>	<p>4 (本時)</p> <p>○思いや意図をもって自分たちの音楽を表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツゴー ソーレー」を合奏する。 ・学習カードを確認し、前時で行った演奏の仕方の工夫について振り返る。 ・グループで、表現の工夫について再度確認して演奏する。 ・グループごとに発表し、それぞれの演奏のよさや面白さ、工夫したことをもとに聴く(確認する)。  <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツゴー ソーレー」の合奏を録音し、第2時での演奏と比較聴取することで、自分たちの思いや意図が演奏表現として具現化できたか確かめる。 ・教師による「レッツゴー ソーレー」と「ソラシド マーチ」の演奏を鑑賞する。 ・自分の演奏を振り返り、実現できたことと、次への目標を学習カードに記入する。 	<p>「おおむね満足できる」状況(B)と判断した児童の学習状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを見ながら演奏の仕方の工夫について確認したり、旋律や音色を意識しながら表現したりしている。 ・旋律や音色について触れた発言や記述がされている。 <p>「努力を要する」状況と判断されそうな児童への働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを再度確認させ、その内容についてできているか振り返りをさせたり、必要な技能が足りない時には、どのようにしたらよいか確認したり練習させたりする。 ・旋律や音色を視点に記述できない場合には、友達の意見を参考にしたり、演奏の例示をしたりして気付かせるようにする。 <p>【技-②】 (演奏聴取)</p> <p>【鑑-②】 (発言・観察・学習カード)</p>

⑦成果と課題

- ・ 知覚・感受したことをもとに、思いや意図をもつことで、その演奏を児童は、自分なりの新たな価値として認識することができた。
- ・ 器楽分野では、思いや意図をもとにすることで、表現のための技能の必要感をもつが、すぐにその技能を獲得できなこともあり、目指す音楽へ見通しがもちにくい児童もいた。
- ・ 本事例では、一人一人の「思いや意図」、「表現の工夫」を、グループや学級としての表現としてまとめるよう取り組んだが、歌唱の事例と同様に、表現について合意形成を図る必要性やその手法については今後検討が必要。

⑧資料

- ・ 学習カード (児童①)

- ・ 学習カード (児童②)

VI 研究の成果と課題

1 研究のまとめ

本研究では、研究主題を「思いや意図をもって音楽活動するための指導と評価の工夫」とし、先行研究を踏まえ、2回の課題把握のための授業及び4回の検証授業による実践研究を進めた。

知覚・感受を基盤とした児童の思考の流れに沿った学習過程及び評価計画を位置付けることで、十分な知覚・感受から児童が自らの思いや意図をもち、目指す音楽活動につなげていくことを目指した。

2 研究の成果

(1) [共通事項]の精選と学習内容の明確化

[共通事項]を精選するにあたっては、6年間の系統性と発達段階を考慮し、教材の選択とともに吟味して絞ることが大切である。加えて、どの[共通事項]にするかではなく、その[共通事項]で何を教えるかを具体的な学習内容として捉えることの重要性が明らかになった。[共通事項]を絞る→具体的内容で示す→どう教えるのかを明らかにする(学習活動)、この過程を経ることで学習内容を明確化することができることが分かった。学習内容が明確になることで、教師は知覚・感受させるために適した教材を選択したり、的確な指導や助言をしたりすることができるようになる。また、最初は大きめで曖昧な児童の思いや表現の工夫を整理し、児童自らが求める音楽表現につなげさせることもできるようになる。

(2) 知覚・感受を基盤とした学習過程

思いや意図は、十分な知覚・感受が基盤となって生まれるものである。児童が音楽そのものを豊かに感じ取り、それをもとに「自分だったらこうしたい」という発想や意図をもてる授業を構成することが、「思いや意図」を実現していく学習の手だてになることが分かった。学習過程全体を見渡し、その基盤として「何を知覚・感受させるか」「どうやって知覚・感受させるか」を学習のねらいと一致させ、明確にしておくことが重要である。

(3) 児童の思考の流れに沿った指導と評価計画

学習活動における児童の思考の流れを4段階で捉え、その各段階において指導の手だてと評価を工夫して実践することが、授業を展開させる上で有効であった。

本研究では、児童の思考の流れを、①知覚・感受する、②思いや意図をもつ、③目指す音楽活動につなぐ、④目指す音楽の4段階に整理し、それに対応する形で、指導計画と評価計画を位置付けた。特に評価計画においては、評価の4つの観点をそれぞれの段階に応じた目に見える児童の姿で表すことで、具体的な指導の工夫を考えることができた。また、評価規準においても、児童の具体的な姿にすることで、見えにくい観点を「見える姿」に可視化することができた。さらに「評価の方法例と配慮点」を挙げることで、多角的に学習状況を見取る具体的な方法を検討した。これらは、教師の授業改善につながる手だてとして実感するものである。

3 今後の課題

(1) 表現と鑑賞をより効果的に関連させるための題材構成と教材選定の追求

本研究では、鑑賞を知覚・感受と目指す音楽の段階に位置付け、その題材の中で求める学力を表現と鑑賞において一体的に達成することを目指した。表現活動の学びを生かし、より深く鑑賞につながるための題材構成と教材選択は、非常に難しい課題であった。音楽は様々な要素と仕組みが組み合わされている。その中から学ばせたい要素や仕組みを精選し、表現と鑑賞を効果的に関連させた学習活動へと発展させるには、まだまだ多くの試行錯誤と実践事例が必要であると感じた。

(2) 継続的にできる日常の授業の中での評価方法の工夫

本研究では、評価を指導と一体化した「指導の改善に生かすための評価」と捉え、方法例を模索し、それぞれについて配慮する視点を検討した。児童によっては、実技テストや発表などの緊張を伴う場面では、身に付けた本当の力を発揮できない場合もある。児童の思考や音楽活動の流れを滞らせない日常の授業の中での評価を工夫していきたい。しかし、授業を進めながら一人一人の児童を見取り、評価することはなかなか難しい。教師の負担が少なく、継続的にできる評価方法の工夫が求められる。

(3) 思いや意図をもち主体的に取り組む音楽活動と、音楽的技術のバランス

社会のグローバル化などに伴い、思考力や判断力など変化に柔軟に対応する能力や資質が求められている。音楽教育においても、思いや意図をもつ力、音楽を通して自分を表現する力の育成が重視されている。本研究でも、主題を「思いや意図をもって音楽活動するための指導と評価の工夫」と設定し、児童の思考の流れに沿った指導と評価について学んできた。研究を進める中で、児童の意識を高めていくことの重要性と同様に、音楽的技術の大切さを感じた。音楽で自分を表現する時、教えられた通りに再現するだけでは生き生きとした表現にはならない。しかし、表現する技術がなくては自分の思いを思うように表現することが出来ない。児童が目指す音楽への思いや意図をもち、それを実現するために、何回も歌ったり演奏したりして繰り返す中で、技能を身に付けられるような教師の支援と音楽活動を目指したい。

(4) 音楽科における言語活動の充実

本研究のあらゆる場面において言語に関する能力は重要であった。「知覚・感受したこと」「自分の思いや意図」などを表現するために「言語化する力」「豊かな語彙」が必要だと感じた。平成20年中央教育審議会答申では、言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心を育む上でも、言語に関する能力を高めていくことが重要であるとし、各教科等において言語活動を充実することとしている。音楽科においても、教科として言語活動の充実をどのように捉え、言語に関する能力を高めるためにどのような学習活動を実践していくか、また、言語に関する能力が高まることで音楽科ではどのような効果があるのかについて研究を進めたい。

平成26年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 音 楽

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
港区	三 光 小 学 校	主幹教諭	◎清 水 達 也
文京区	礫 川 小 学 校	主任教諭	木 村 裕 子
墨田区	二 葉 小 学 校	主任教諭	櫻 井 文 子
足立区	東 湊 江 小 学 校	主任教諭	上 田 直 美
東久留米市	第 三 小 学 校	主任教諭	鈴 木 竜 也
多摩市	南 鶴 牧 小 学 校	教 諭	森 平 啓 子

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育経営課
指導主事 湊 映 子

平成26年度
教育研究員研究報告書

小学校・音楽

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成26年度第186号〕

平成27年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社